



さあ、答え合わせをしよう！

第6週目 8/24 ⑥古墳時代(こふんじだい)からの出題

1. 日本で最大(さいだい)の古墳(こふん)は？

正解：①大山古墳 ※ココを見てね！▶調べてみよう～もっと知りたい古墳時代「古墳(こふん)をつくる」

大山古墳(だいせんこふん)は、大阪(おおさか)にある 古市・百舌鳥古墳群(ふるいち・もずこふんぐん)の一つで、墳丘(ふんきゅう)の全長は約 486 メートル、まわりに周濠(しゅうごう)とよばれる濠(ほり)がめぐっています。仁徳天皇(にんとくてんのう)の墓(はか)とも言われていますが、だれの墓なのかは明らかではありません。古墳(こふん)の中には入れませんが、まわりに 2.8 キロメートルの周遊路(しゅうゆうろ)が整備(せいび)されています。

2. 古墳時代(こふんじだい)に登場(とうじょう)した船(ふね)は？

正解：②準構造船(じゅんこうぞうせん) ※ココを見てね！▶調べてみよう～もっと知りたい古墳時代「古墳時代の船(ふね)」

縄文時代(じょうもんじだい)や弥生時代(やよいじだい)には、「丸木船(まるきぶね)」が使われていました。弥生時代(やよいじだい)のおわりごろから古墳時代(こふんじだい)にかけて「準構造船(じゅんこうぞうせん)」が登場(とうじょう)するようになり、この時代に見られる船形埴輪(ふながたはにわ)のモデルにもなっています。「構造船(こうぞうせん)」へと発展(はってん)するのは、もう少し後のことです。丸木船(まるきぶね)は一本の木をくり抜(ぬ)いたもの、準構造船(じゅんこうぞうせん)は丸木船(まるきぶね)のまわりに板を立てたもの、構造船(こうぞうせん)は板を組み合わせたもので、次第(しだい)に原木(げんぼく)の大きさに制限(せいげん)されることなく、大型(おおがた)の船(ふね)をつくるできるようになりました。

3. 古墳(こふん)に船形埴輪(ふながたはにわ)がおかれたのはなぜ？

正解：②死者のたましいを運ぶから ※ココを見てね！▶調べてみよう～もっと知りたい古墳時代「古墳時代の船(ふね)」

船形埴輪(ふながたはにわ)は、全国で約 60 例(れい)が見つかっています。船(ふね)が墓(はか)である古墳(こふん)におかれたのは、古墳(こふん)を死後(しご)の世界とみなし、船(ふね)で運ばれた死者のたましいが死後(しご)の世界へ無事(ぶじ)に到着(とうちゃく)したようすをあらわしているため、と考えられています。このように、死者のたましいが船(ふね)に乗って死後(しご)の世界へ運ばれる、という考えは、エジプトなど他の国でもあったようです。

4. この時代に朝鮮半島(ちょうせんはんとく)から伝わった動物は？

正解：②馬(うま) ※ココを見てね！▶調べてみよう～もっと知りたい古墳時代「馬の登場(とうじょう)」

鹿(しか)や犬(いぬ)は、縄文時代(じょうもんじだい)の遺跡(いせき)からみつかり、古墳時代(こふんじだい)よりもずっと前から日本にいたことがわかっています。古墳時代(こふんじだい)の遺跡(いせき)からは、馬の骨(ほね)や、馬に乗る道具(=馬具:ばぐ)が見つかることから、古墳時代(こふんじだい)になって馬が日本列島(れっとう)に持ち込まれ、広まったことがわかります。馬具(ばぐ)の形が朝鮮半島(ちょうせんはんとく)のものと似(に)ていることから、馬は朝鮮半島(ちょうせんはんとく)から船に乗せられてやってきたようです。馬と同時に、乗馬(じょうば)の技術(ぎじゅつ)、馬の飼育(しいく)の技術(ぎじゅつ)も伝わりました。

5. 日本最大(さいだい)の古墳(こふん)をつくるため、一日に何人の人が働(はたら)いたでしょう？

正解：③2,000 人 ※ココを見てね！▶調べてみよう～もっと知りたい古墳時代「古墳(こふん)をつくる」

日本で最大の古墳(こふん)、大山古墳(だいせんこふん)をつくるために、1日に 2,000 人が 15 年 8 ヶ月も働いていたと考えられています。他にも、設計図(せつけいず)を作成する人、現地で測量(そくりょう)をする人、働く人を管理・指導(かんり・しどう)する人、道具をつくる人、食事や住まいの世話(せわ)をする人、埴輪(はにわ)をつくる人、石棺(せっかん)をつくる人やそれを運ぶ人、石室(せきしつ)をつくる人やそのための石を運ぶ人…など、他にもたくさんの人々が古墳(こふん)づくりにかかわっていました。巨大(きょだい)な古墳(こふん)は、多くの人々を古墳(こふん)づくりに参加(さんか)させることができた王の力をあらわしています。